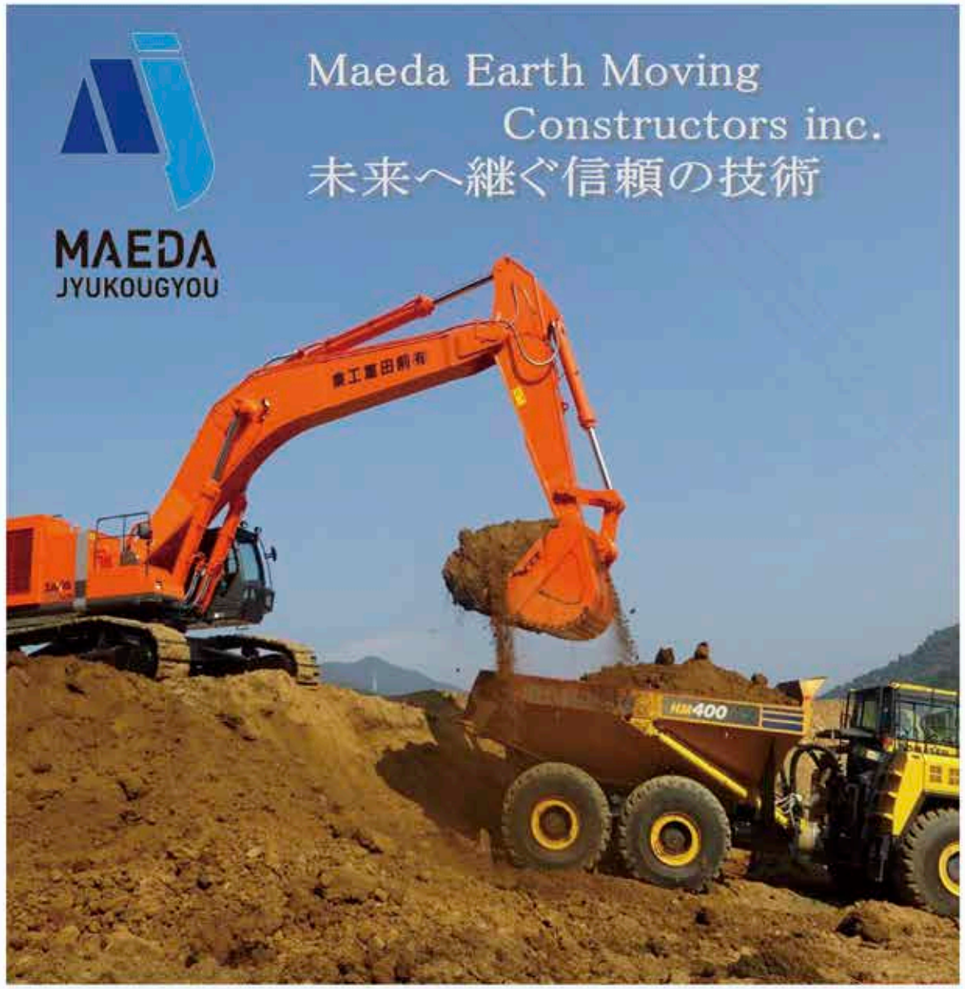
Your Move!

支えてもらう覚悟が、世界を広げる。

SSP

Side Stand Project



現場のニーズに応え、安心と安全を届けます

有限会社 前 田 重 工 業

工事部 ： 重機土工、一般土木、伐採材粉砕

運輸部 ： 建設機械重量物運搬、産業廃棄物収集運搬

EVERYTHING WILL BE SUSTAINABLE

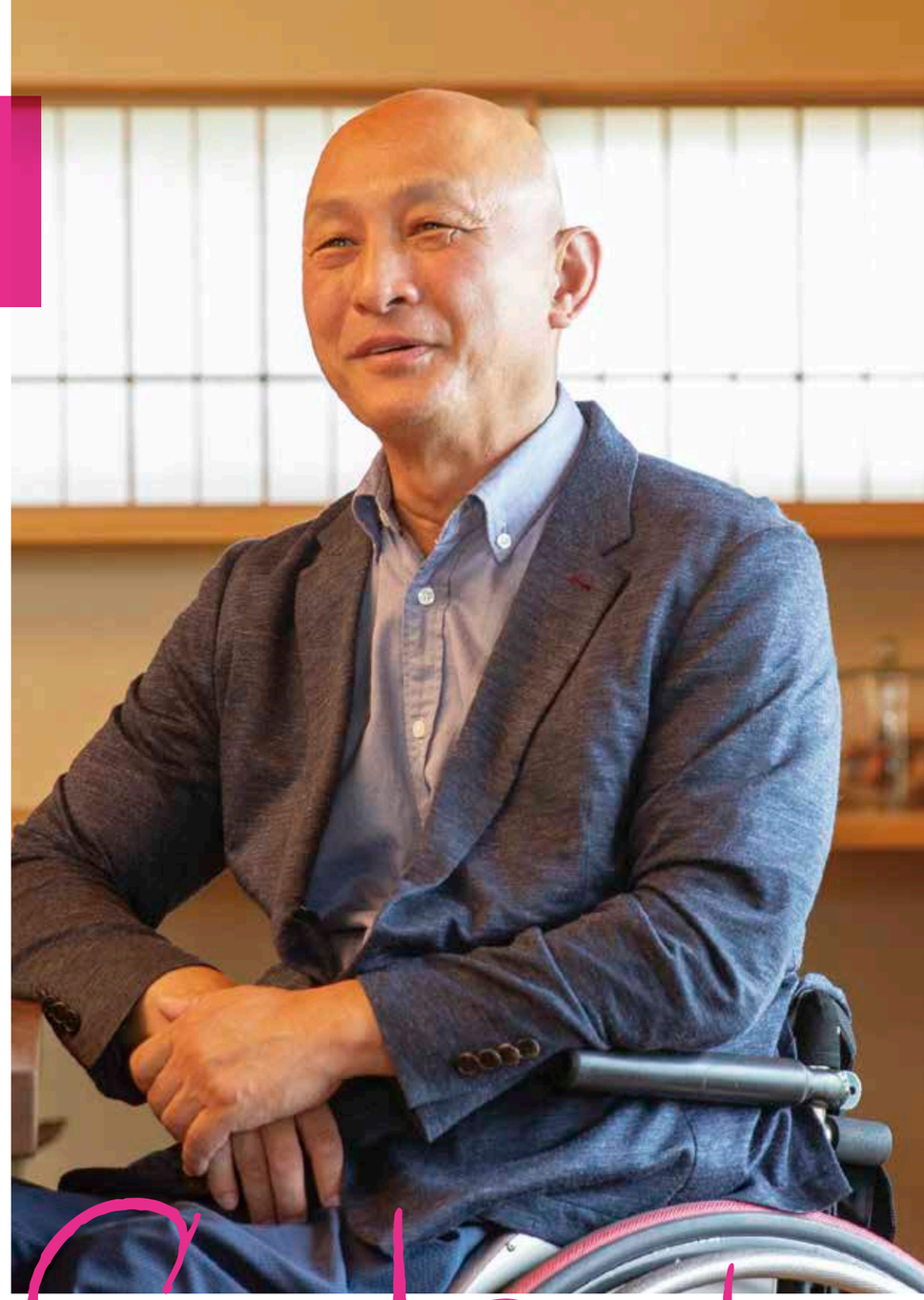
2050

すべてを持続可能に

ミシュランは「すべてを持続可能に」というビジョンのもと、人、地球、利益「三方良し」の理想を叶え、
2050 年までにタイヤを 100% 持続可能にすると約束しています。
そして、それぞれの活動領域において、カーボンニュートラル、サーキュラーエコノミーを実現します。

www.michelin.co.jp

MICHELIN



毎晩のように歩いたりバイクに乗ったりする夢を見ていました。でも朝起きるとやっぱり足が動かなくて、絶望するんです。

Speaks out

22年前、 オートバイで脊髄を損傷して車椅子生活を余儀なくされた阿部さん。SSPでも仕事でもバリアフリーの設計に関わることで、様々な思いが交錯する。阿部さんの考えるバリアフリーの姿とは

レース中の事故で車椅子にSSPとの出会い

「目が覚めたらサーキットの医務室に寝かされていました。足が動かなくて『やっちゃったな』と一瞬で自分の状況を理解し、受け入れることができたんです」。阿部一雄さんは事故直後のことをそんな風に語ってくれた。

阿部さんが初めてオートバイに乗ったのは高校一年生の時。親に内緒で免許を取得し、オートバイも友人の家に置かせてもらって、家族に隠れて乗っていたという。道なき道を走るのが好きで、当時の愛車はオフロードタイプのXL125だった。大学時代は通学の足として、社会人になってからも趣味として、阿部さんの人生はずっとオートバイと共にあった。いつの間にかサーキットに通うようになり、レースに出ていた阿部さんを悲劇が襲ったのは、2002年のTIサーキット英田（現在の岡山国際サーキット）。レースにエントリーしていた阿部さんは予選で転倒してしまい、救急搬送された。背骨を骨折し、脊髄を損傷。車椅子生活者となった。

「事故の後2年間くらいは、毎晩のように歩いたりバイクに乗ったりする夢を見ていました。でも朝起きるとやっぱり足が動かなくて、絶望するんです」

高校時代はクロスカントリースキーに打ち込み、スポーツ特待で大学へ進んだほど体を動かすのが得意だったという阿部さんは、オートバイの他に渓流釣りが好きだったが、車椅子ではどれも満足にできなかった。「車椅子になった自分に何ができるのだろう」と考えた阿部さんが導き出した答えは、建築の仕事に打ち込むことだった。背中を押してくれたのは「車椅子の建築士がいてもいいんじゃないか」という父親の言葉だったという。

「3ヶ月半入院して、退院したその足で仕事に行きました。仕事がしたくて仕方なかったんです」。そうして車椅子の建築士としてバリアフリーの設計に深く携わるようになった阿部さんは、同じ車椅子生活者でありながら鈴鹿サーキットでデモランを行った青木拓磨選手と対談する機会があり、SSPに出会ったのだった。

SSPの活動は心のバリアフリーに最適

「障がいを負うと、誰かの手を煩わせることが嫌になるんです。でも自分一人でできることはとても少なくて、そんな自分に対する嫌悪感とか罪悪感とか、いろんな葛藤を抱えて生きていかなくてはいけないので、心にバリアを作ってしまうんです。自分が遠慮すると、相手も僕に遠慮してしまい、お互いに遠慮することで潜在的に不安になっていきます。僕は仕事で障がい者に関わることが多いので、いつも皆さんに「心のバリアを外してください（心のバリアフリー）」という話をするんです。

SSPはそんな心のバリアを外すのに、本当に最適な場所なんです。オートバイに乗るということは、支えてくれている皆さんが手を離したら、一人になってしまいます。運転は誰にも頼ることはできませんので、一人でやらなくてはいけない。そのためにはスタッフの皆さんが支えてくれている間に、心のバリアを外さないといけないんです。着替えをするのも、オートバイに跨るのも一人ではできませんから、遠慮していたら何も始まらないのです。SSPでは想いを伝えて、返してもらう、そんなキャッチボールが自然とできるようになっているんです」。

車椅子の建築士として、パラモトライダーとして、阿部さんはこれからもSSPと共に障がい者の心のバリアフリーを手助けしていきたいと語る。

RVF750R（RC45）で鈴鹿サーキットを走る事故前の阿部さん

やったぜ!! Rider

阿部一雄さん

脊髄損傷 Th9完全麻痺

1964年、愛知県出身。阿部建設株式会社代表取締役社長。一級建築士。2002年、オートバイレース中の事故により脊髄を損傷、車椅子生活者となる。2021年6月、鈴鹿サーキットで開催されたSSPにて、約20年ぶりにオートバイに乗る。2022年「やるぜ!! 箱根ターンパイク」ではトップバッターの大役を担った。

バックミラーを覗くと、いつも支えてくれた仲間たちがいる。こんなに嬉しいことはない

爽やかな風、緑の匂い、そして眼下には青い海。ああ、今年も箱根を走れる。

レースやツーリング中の事故により障がいを持つに至ってしまった人々でも、諦めずに一歩を踏み出せば、再びオートバイに乗ることができる。それを可能にしてくれるのが、サイドスタンドプロジェクト（SSP）だ

やるぜっ!!
箱根
ターンパイク

Speaks out

毎晩のように歩いたりバイクに乗ったりする夢を見ていました。
でも朝起きるとやっぱり足が動かなくて、絶望するんです。

かつての仲間と共に風と匂いを感じて箱根を走る

SSP（サイドスタンドプロジェクト）は健常者がサイドスタンドの代わりとなって支えることで、下半身不随など障がいを持つ人にもオートバイに乗る喜びを味わってもらい、その中で関わる人々との交流を楽しんでもらうことを活動の趣旨としている。教習所やサーキットの敷地を借り、毎月のように全国各地でイベントを開催。その中から「十分に安全な走行ができる」と判断されたパラモトライダー（SSPでの障がい者ライダーの呼称）だけが、年に一度この箱根を走ることができる。普段のSSPと違い公道を走行できること、また自身のツーリング仲間と一緒に走ることができるため、パラモトライダーたちはこの箱根を走ることを目標に練習に取り組んできた。

2023年9月10日、アネスト岩田ターンパイク箱根を貸し切ってSSPが開催された。21年前にレース中の事故で車椅子生活者となった阿部一雄さんはこの日、一人目のパラモトライダーとして重役を担った。

「去年に続き今年もトップバッターという大役を仰せつかり、一番目に走らせてもらいました。絶対に事故を起こせないので、去年は緊張していて景色を楽しむ余裕がなかったのですが、今年は少し余裕があったのかしっかり景色を見ることができて、往復が去年よりもすごく長く感じましたね」と阿部さんは話す。

ターンパイク箱根は、低いところの標高はほぼシーレベルなのに対して大観山展望台のある一番高いところは約1000mあり、その標高差は981mある。

「スタートして中程まで降りて、走りにも慣れてきた頃に、遠くに海や街が見えて、本当に最高の気分でした。先日走らせてもらった鈴鹿サーキットよりも緑が近くて、高低差もあるし、草原みたいなところを走ったりもするので、匂いが違うんですよね。サーキットよりも五感全部でバイクを感じることが出来るんです。僕と同世代のレーサーである寺本さんが先導してくれたのですが、寺本さんは僕がレースをやっていたことも知っているので、2本目の走行では少しペースを上げてくれたんです。少しスピードが上がってくるとサスペンションがしっかり動いてコーナーでバンクさせられたり、バイクらしい動きをするものですから、2本目は1本目よりも楽しく走ることができました」

オートバイが大好きで、学生時代からオートバイと共に生きてきた阿部さんにとって、もはやSSPはなくてはならない存在だ。

「我々障がい者はたくさんの人に助けてもらわなければバイクに乗れないのですが、去年よりも今年の方が参加人数も出展企業も増えていて、こうした活動が世間に対して障がい者やバリアフリーの認知度を広げてくれ、「諦めなければ出来る」ということが、色々な人に伝わればいいな、と思います。

僕にとってSSPという存在は人生の糧の一つになっています。これをきっかけにして新しいことにまた挑戦できるような、パワーをもらえる存在です。また来年もあるようでしたら、皆さんに感謝して走りたいと思います」

走行前のブリーフィングを真剣に聞く阿部さん。表情からは第一走者としての緊張が伺える

途中には多数のボランティアスタッフが配置されており、パラモトライダーに声援を送った

走行を終えて無事ゴールゲートを潜った阿部さんを、ボランティアスタッフが受け止める

阿部さんが所属するRC30オーナーズクラブのメンバーが、日本中から集まった

昭和電機グループのご紹介

Showa Denki Group
昭和電機株式会社

製品情報
お問い合わせ

SDG
Showa Denki Group

昭和電機グループは、送風機・環境機器・集塵機といった環境改善機器の製造メーカーであり、ちょこっとした作業場のお悩みも解決する“ちょこっとエンジニアリング企業”です。製品の製造はもちろんですが、弊社製品と周辺機器をフレキシブルに組み合わせることで、みなさまの「ちょこっとした悩み」を解決していくエンジニアリング集団でもあります。安全で快適な作業空間を形にします。

ちょこっとエンジニアリング

環境改善、課題解決。製造販売にとどまらない、顧客単位のきめ細かなエンジニアリングの提供。

SDG タイムズ

SDG TIMES
SDGタイムズ

「昭和電機ってこんな会社です」を、広報社員野村がホスト役として発信していく YouTube チャンネル。
チャンネル登録はこちらから⇒

福利厚生

「福利厚生 No.1 を目指す企業」
SDG 昭和電機グループ
の取り組み。

SDG マリン

SDG-Marine

バスフッシングの本場アメリカから、バスボートを輸入販売。バスボートのプロモーションを兼ねて全国で開催されるバストーナメントに参戦するプロアングラーのサポート及び企業認知活動も実施。

モータースポーツ

モータースポーツを通じた若手育成プロジェクト。
MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ参戦や鈴鹿８時間耐久レース参戦による企業認知活動を実施。

Moving in new ways.
— MAGOKORO Company —

SDG
Showa Denki Group

車いす建築士が手掛けるバリアフリー建築

車いす建築士 / 阿部　一雄

1964年愛知県名古屋市生まれ。中部大学工学部建築学科卒業後、愛知トヨタ自動車株式会社に入社。1989年に阿部建設株式会社入社。2002年に趣味であるオートバイレース中の事故により、車いす生活をはじめる。2005年に阿部建設5代目代表取締役に就任。

誰もがストレスなく、くらしを楽しむために。
介助を必要とする方とされる方、両方の視点に立ったバリアフリー。

健常者と障がい者、どちらも経験した車いす建築士としての視点で、全国延べ300件以上の設計・施工実績をもっています。
創業117年の歴史で培った技術とノウハウで、住宅から施設まで、お客様にとっての本当のバリアフリー空間を叶えます。

バリアフリー住宅・施設の設計、施工、ご相談は全国対応でサポートいたします！

まずはお気軽に
資料のご請求から！

注文住宅　施設建築　土地活用・不動産　バリアフリー住宅・施設の設計、施工
リフォーム・リノベーション　バリアフリー建築相談

- 一般住宅・施設建築の対応エリアは、愛知県・岐阜県・三重県（一部エリアを除く）です。
- 対応エリア、サポート内容についての詳細はお気軽にお問い合わせください。

阿部建設株式会社
〒462-0841 愛知県名古屋市北区黒川本通4-25
TEL：052-911-6311
建築工事業　愛知県知事許可（特-4）第6809号
宅地建物取引業　愛知県知事（4）第20388号

阿部建設のバリアフリー詳しくはこちら

Webサイト　YouTube　Instagram

バリアフリー関連の著書も発売中！

やるぜっ!!
箱根
ターンパイク

”バイクに乗ることを決して諦めない”箱根に集いし13名のパラモトライダーたち

SSPにとって二回目となる挑戦「やるぜっ!! 箱根ターンパイク2023」が開催。13名のパラモトライダーと、それを支える100名を超えるスタッフが箱根に集まり、昨年よりもパワーアップしたイベントとなった

写真左：100名を超えるボランティアスタッフが集まり、パラモトライダーの安全な走行を支えた。中：スタート地点では多くのツーリングライダーや観光客がイベントの様子を見守っていた。右：アネスト岩田スカイラウンジの駐車場では協賛企業のブース出展も行われた

2年目にして単独開催！よりパワーアップした「やる箱」

SSPは立ち上げ当初から「2030年までにターンパイク箱根で開催」を目標としていたが、なんと2022年9月11日に8年も前倒しで『やるぜっ!! 箱根ターンパイク2022』の開催を成し遂げた。そして2年目となる今年は走行時間を長く取ることができるようになり、パラモトライダーたちは1日に2度走行できることになった。

パラモトライダーの持つ障がいはそれぞれで、その症状は一人一人異なる。今年の『やるぜっ!! 箱根ターンパイク2023』に参加するのは片麻痺1名、義足2名、脊髄損傷が10名のパラモトライダーたちで、内3名が初めて箱根を走ることになる。

SSPは普段、教習所やサーキットの敷地を借りて開催されており、パラモトライダーたちはそこでバイクに乗る練習をしている。しかしパラモトライダーの多くは元々ツーリングライダーであり、貸切とはいえ公道を走ることができることには、大きな意味がある。しかも後ろにはかつてのツーリング仲間が一緒に走っており、コース内では対向車線を走る他のパラモトライダーとすれ違うことも。これはもう完全にツーリングだ。

ターンパイク箱根は高低差が約1000m、片道約15㎞。今年は大観山展望台の駐車場に本部およびスタート・ゴール地点を設置するために大観山展望台からスタートし、管理事務所のある料金所で折り返し、再び大観山展望台に戻ってくる約30㎞のコースが設定された。料金所を使用したUターンは昨年よりもタイトで、SSPで使用する大型バイクで安全にUターンができるのか懸念されたが、事前に入念な走行テストを行い、問題はクリアされた。この措置によって昨年より多くの一般の方がイベントの様子を見学することができるようになった。SSPの活動を今後も継続していくためには、ボランティアスタッフの存在や、一般の方の理解が必要不可欠なのだ。

Your Move!

やるぜっ!!
箱根
ターンパイク

”バイクに乗ることを決して諦めない“箱根に集いし13名のパラモトライダーたち

やったぜ!! Rider

吉村陽平さん　脊髄損傷 Th4

「去年の11月に初めてSSPに参加させてもらって、7月に“箱根を走ってもいいですよ”と言ってもらえました。これまではサーキットでしたが今回は公道ですので、交通法規を意識して走るのも新鮮で楽しかったです。ターンパイクは初めて走ったのですが、すごく良い道ですね。車で走るのと違ってバイクはアクセルに敏感に反応してくれるので、操ってる感じがあって最高ですね」

やったぜ!! Rider

牧原伸之さん　脊髄損傷 不全麻痺

「箱根は初参加なのですが、サーキットを走るのとはまた違った味わいがありましたね。僕は今トライクに乗っているのですが、やはり大型バイクで峠道が走れるというのはすごく特別でした。途中、遠くに海が見えた瞬間に色々な感情が込み上げてきてしまって……。本当にたくさんの方がSSPに関わってくれていて、この方達がいるから、僕がこうしてバイクに乗せてもらえているので、本当に感謝しています」

やったぜ!! Rider

丸野飛路志さん　右大腿切断 1/2以上欠損

「僕が走る時にはちょうど霧が晴れていたので、走りながら海を見ることができました。コースの途中でもたくさんのスタッフさんが手を振ってくれていて、すぐ真後ろには偶然同じ日に怪我をして同じ病院に入院していた古谷くんが走っていて。まさか二人一緒にこんな風に走れる日が来るとは夢にも思いませんでした。奇跡のようなありがたい思いをさせていただき、嬉しいのと感謝の気持ちでいっぱいです」

やったぜ!! Rider

栗本秀幸さん　脊髄損傷 Th2

「楽しいの一言ですね！　怪我をした直後は目の前が真っ暗だったのですが、SSPに出会ってもう一度バイクに乗ることができ、“障がいがあってもバイクに乗れるんだ”と、とても前向きになることができました。やっぱりサーキットに比べて箱根は特別ですね。山の中を走っていると昔バイクに乗っていた頃の感覚を思い出します。ずっと続いていって、これから年に一度の楽しみになれば嬉しいです」

やったぜ!! Rider

長田龍司さん　脊髄損傷 Th12 L3.4

「去年ここで走らせてもらってから一年間SSPに参加できず、一年ぶりのバイクになってしまったのでちょっと緊張したのですが、障がいを負ってからSSPに初参加した時なんて28年ぶりだったので、それに比べたら全然なんでもありませんでした。僕はジャケットの背中に友人や青木拓磨さんのサインを書いてもらっていて、みんなの想いを乗せて走っているので、とても心強かったです」

やったぜ!! Rider

樋榮 聖さん　脊髄損傷 Th7

「上の方は少しだけ霧が出ていましたが、途中で霧が晴れて海が見えて、気持ちよくいいペースで走れたと思います。スタート前に足のビンディングの位置が合わなくて予定の時間にスタートできなかったのですが、スタッフの皆さんがすごく冷静に対処してくれましたし、いつも真剣に練習してくださっているのも知っているので、慌てず落ち着いて走ることができました」

やったぜ!! Rider

野口 忠さん　脊髄損傷 Th12

「去年は走ることに一生懸命で、あまり景色を見る余裕がなかったのですが、今年は少しペースを落としてもらってインカムでガイドしてもらいながらたっぷりと景色を堪能することができました。なんと言っても自然の匂いがするのが良いですね。ミラーを覗けば後ろにたくさんの仲間がいて、まるで本当にツーリングしているような気持ちを味わうことができ、最高でした」

やったぜ!! Rider

古谷 卓さん　脊髄損傷 Th12完全麻痺

「丸野さんとは事故した日が同じで、同じ病院でリハビリをしていて仲良くなって、それから20年くらいずっと家族ぐるみのお付き合いをさせてもらっているんです。今日は丸野さんが走っている姿を後ろからじっくり見ることができ、あまりの自然さに感動していたら、僕の後ろを走っているスタッフさんが“古谷くんも普通に走ってるように見えるよ”って言ってくれて、本当に嬉しかったです」

やったぜ!! Rider

青木拓磨さん　脊髄損傷

「僕ら障がい者はもう二度とバイクに乗れないと思っていたんです。ところが皆さんに支えていただき、こうしてバイクに乗ることができて、皆さんとバイクの面白さを共有できています。皆さんにご協力いただき、このすごく貴重な機会であるSSPを開催することができました。代表の治親を差し置く形にはなってしまいますけど、本当に皆さんに感謝しております。ありがとうございました」

やったぜ!! Rider

中垣良則さん　脊髄損傷 Th6

「僕はKTMライダーだったので、新しく導入されたKTMに乗せてもらえてすごく嬉しかったです。また、今年は最初が下りだったので腕の負担が少なく、楽しく走れました。こんな風に障がいを持っているのにバイクに乗らせてもらえるということは夢のようです。まだまだSSPを知らない人も多いと思いますし、諦めてる人もいると思いますので、もっとたくさんの人に参加してもらいたいです」

やったぜ!! Rider

まがり美和さん　右大腿切断 腰骨から34cm股下20cm残存

「前日に箱根に入ってタンデム走行でコースの下見を行いました。昨日は霧がすごくて景色が全く見えなかったのですが、今日は下の方は霧も晴れて色々な景色を見ることができました。また、去年よりも緊張が少なくて、落ち着いて走ることができたのが良かったです。Uターンポイントが狭いと聞いていて少しだけ緊張しましたが、大丈夫でした」

やったぜ!! Rider

早岐伸子さん　右半身麻痺

「ここは病気になる直前に走っていた道でもあるので、自分の中で再スタートの区切りとして“来年こそは箱根を走るぞ！”と決めて、一年間リハビリに取り組んできました。スタート前は緊張していたのですが、走り出してみたら、ただただ楽しかったです。たまにミラーを見るとお友達が一緒に走ってくれているのが見えて、ここからまた次のステップに進めたらいいな、と思いました」

『やるぜっ!! 箱根ターンパイク2023』を支えた
スタッフたち

Your Move!

オートバイで繋がる人の輪が人生を豊かにしてくれる

**この日、13名のパラモトライダーを支えるために
100名以上のボランティアスタッフが箱根に集まった
彼らを動かすものとは一体なんなのだろうか?**

ボランティアマネージャー

杉本卓弥さん

何かを返してもらおうなんて誰も思っていないのに……

明日は我が身なんですよね。全く他人事では無く、僕や僕の親しい友人が明日バイクに乗れなくなるかもしれません。僕は自分が大怪我してもやっぱりオートバイに乗りたいと思うんです。その時に、このサイドスタンドプロジェクトが受け皿としてあるということは本当に素晴らしいことだと思います。オートバイはこんなにも楽しい乗り物なので、オートバイを楽しむことに壁があってはいけないと思うんです。

僕らスタッフ一人一人はすごく微力です。一人では何もできません。でもその微力なみんなが一人ずつこういう活動に賛同して〝自分に何ができるか〟を考えれば、できることはたくさんあるんです。その証拠にこうしてパラモトライダーさんがターンパイク箱根を走ってるんですから。〝できるんだよ。もっと楽しい人生を歩めるよ〟ということを、もっとたくさんの人に知ってもらいたいと思います。

世の中は多くの場合ギブアンドテイクだと思うのですが、〝何かを返してもらおう〟なんて気持ちでここに来ている人は一人もいません。

ただし断言できますが、実は僕たちボランティアスタッフにもSSPでしか得られない、大きなギャランティが沢山あります。それは感動・勇気・笑顔・涙・それに仲間たちの絆。様々に湧き上がる感情含め、僕たちスタッフがパラモトライダーの皆さんから、強く生きる力を貰っているのかもしれませんね。

パラモトライダーさんの走りを見たら、人間の可能性の素晴らしさを改めて感じるし、なんでもできるような気持ちにさせてくれるんです。あとはあの笑顔を見たら、疲れも何もかも吹き飛びますよ。まるで少年少女のような、すごく良い笑顔を見ることが出来るんです。スタッフもパラモトライダーさんも同じ、一生懸命やらないとわからないんです。大切なのは一歩を踏み出すこと。心からそう思います。

気持ちを強く持っていれば叶うんだな

SSPは一人一人の力が集まって成り立っているイベントなんだな、ということを強く感じています。私は仕事でB+COMというブルートゥースインカムを扱っているので、それで少しでも皆さんのお役に立てたら、と思って参加させていただいているのですが、いつもでしたら仕事として扱っている商品がすごく人のお役に立てていることが実感できる場所なんです。それがまた日々の仕事や生活にすごく良い影響を与えてくれています。

普通に生活をしていると、「障がい者」という言葉を使う時に一瞬ためらうと思うんです。それがこの活動ではバイクに乗る障がい者の方をパラモトライダーさんと呼んでいて、それが当たり前にできるということが、何か垣根が取れた感じがするんです。垣根がなくなって、素直にバイクの楽しさを共有できるから、心から笑顔になれるし、〝また次も参加したい〟という気持ちに繋がっているのかな、と思いますね。

SSPに参加すると毎回すごく感動するのですが、初めて参加した時は本当に感動しました。自分が〝できないんじゃないの?〟って思っていたことが、できちゃった瞬間。気持ちを強く持っていれば叶うんだな、ということを強く感じました。

健常者でも障がい者でも当たり前のように感情の起伏がある中で、〝障がい者だから特別〟ということではなくて、誰しも色々なことがあって生活されているということ。障がい者の方と接すると健常者よりもできないことが多いわけなのですが、それでも僕らと同じように生活されていることに気づけるんです。すると〝僕にはもっとできることがあるんじゃないかな〟と、そういう気持ちが常に持てるようになってくるんです。これは生活だけじゃなくて仕事も同じです。助け合うこと、思いやること、すごく簡単なはずなのに出来てないこと、この活動は、それがないと成り立たないんです。

僕にとってSSPは、ないことが考えられない活動です。できる限り続けていきたいと思います。

ボランティアスタッフ

野信孝さん

ボランティアスタッフ

西澤亜美さん

支える側なのに支えられている

SSPに参加して一番驚いたことは、〝自分のこと以外でこんなに喜べるんだな〟ということです。また、私は障がい者の方に対して勝手に心の距離を感じてしまっていたのですが、この活動に参加するようになってからはすごく身近なものになりました。日常生活でも困っている障がい者の方がいたら声をかけられるようになりましたし、すごく視野が広くなったと思います。

私たちはパラモトライダーさんたちがバイクに乗るのを助けている側ではあるのですが、ものすごく喜んでくださって、見たこともないような笑顔に触れることができて、私たちもすごく元気をもらうことができます。

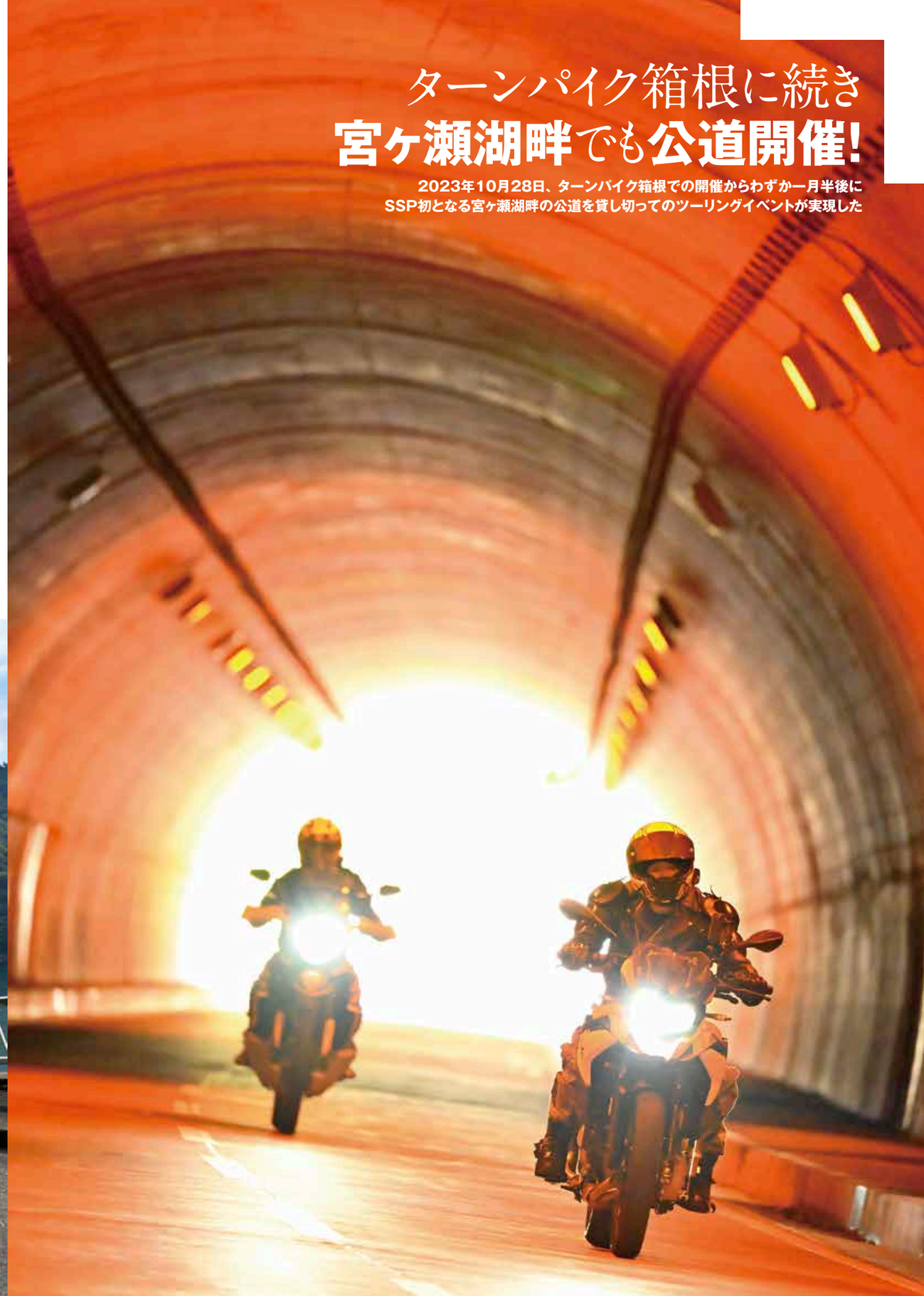
SSPに来ると、普段の仕事や社会的立場などは全てなくなって、年の差や性別の違い、住んでる地域なども関係なく、スタッフ同士が気軽に声を掛け合える友人のようになっていて、すごく楽しい雰囲気なんです。私はバイクに乗れないですし、倒すのが怖くてバイクを押すこともできないのですが、みんなで声を掛け合ってそれぞれが自分にできることを探してやっているので、もし私と同じようにバイクに乗れないことでSSPの活動に敷居の高さを感じている人がいたら、ぜひ気軽に参加してみて欲しいと思います。

SSPは私にとって世界を広げてくれた存在です。本当に人生観が変わりました。役割としては障がい者の方を支える側ではあるのですが、私の方が皆さんに支えられているな、と感じる場面がたくさんあるんです。

やるぜっ!!
箱根
ターンパイク

ターンパイク箱根に続き
宮ヶ瀬湖畔でも公道開催!

2023年10月28日、ターンパイク箱根での開催からわずか一月半後に
SSP初となる宮ヶ瀬湖畔の公道を貸し切ってのツーリングイベントが実現した



多くの人の目にとまる公道開催が持つ意味

神奈川県相模原市に本拠地を置くSSPでは相模原市SDGsパートナーとして活動を行っている。その一環として、相模原市の協力を受けて実現したのが「宮ヶ瀬湖SSP北岸ツーリング」だ。

宮ヶ瀬湖と言えば、神奈川県内だけでなく関東中からライダーが集まるツーリングの聖地の一つ。さらにイベント当日、SSP本部が設置された「鳥居原ふれあいの館」は宮ヶ瀬湖に集うライダーが待ち合わせや休憩に利用することで知られており、休日のみならず平日にもたくさんのライダーが訪れる場所だ。

普段は公道として使用されている宮ヶ瀬湖の北岸道路を通行止めにし、往復約9㎞のルートを設定。パラモトライダーたちは水と緑を間近に感じながらゆっくりとツーリングを楽しんだ。また、ルート上にはトンネルもあり、ライダーだけが知っているトンネル内の気温変化や、排気音の反響など、懐かしい感覚を味わうことができた。

ターンパイク箱根や宮ヶ瀬湖での開催が、サーキットや教習所など特定施設内での一般開催と最も異なる点は、関係者以外の人の目にたくさん触れる点だ。SSPが目指す「隔たりの無い社会」を実現するためには、より多くの人が「助けがあれば障がい者でもオートバイに乗ることができる」という認識を持つことが大切なのだ。

SSPでは今後も公道を使ってパラモトライダーがオートバイに乗ることができる環境を整えていく。

「やるぜっ!! 箱根ターンパイク2023」への参加が決まっていたにも関わらず、直前の体調不良で欠席してしまった関口和正さんもこの宮ヶ瀬ツーリングに参加。満面の笑みを見せてくれた

7名のパラモトライダー、57名のスタッフが参加し、秋晴れの宮ヶ瀬を堪能した

「何か人のためになる事をしなさい」父の言葉が形になったサイドスタンドプロジェクト

青木治親 SSP代表

1976年生まれ47歳、群馬県出身。90年代のロードレース界を沸かせた青木三兄弟の三男、95・96年のロードレース世界選手権125ccチャンピオンである。次男の青木拓磨が98年にテスト中の転倒事故で脊髄損傷、下半身不随となってしまったことで車椅子ライダーの支援をしていくようになり、その活動は今「SSP」という形で結実している。SSPで人のために活動する原点は、彼らの父親にあった

オートバイとSSPで繋がる一つの輪

SSPを主催する一般社団法人SSPの青木治親代表は、兄であり、このSSPを始めるきっかけにもなった拓磨さんのライダーズ（パラモトライダーと一緒に走行する友人・家族）として、長男・宣篤と共にバイクに跨り、それぞれのパッセンジャーシートに両親を乗せ、初めてとなる家族5人での箱根ツーリングを実現した。

「サイドスタンドプロジェクトの中でもこの『やるぜっ!! 箱根ターンバイク』は一大イベントで、100名以上のスタッフさんに手伝ってもらいながら開催できたことを本当に感謝しています。皆さんの力なくしてはこのイベントの開催は絶対できないことですし、パラモトライダーさんの笑顔がいつも以上に素敵だな、と感じることができました。

今年は去年よりもたくさんの方に〝何か手伝おうか？〟と声をかけてもらえました。このサイドスタンドプロジェクトの活動を地道に続けていく中で、少しずつ世の中に広がっていることを肌で感じています。この活動をこれからも幅広く続けていくことが、僕のこれからの役目だと思っています。

僕は昔から父親に〝何か人のためになる事をしなさい〟と言われ続けてきました。みんなに支えられながらできていることではあるのですが、親に言われてきたことが、サイドスタンドプロジェクトという形になって実を結んでいるのかなと思っています。僕一人ではできなくて、こうして集まってきてくれるボランティアスタッフ、その友人たちが、オートバイとサイドスタンドプロジェクトで繋がる一つの輪かな、と思っています。

今日、知らない人に『ここに集まっている人ってみんな雰囲気いいね』って言ってもらえたんですよ。そういう意思を持っている人が集まってるから、このサイドスタンドプロジェクトはみんなで笑っていられる活動なのかな、と思っています。

これからもぜひ応援してくださいますよう、お願いいたします。

TAICHI

TAICHI SAFETY

安心、安全、歓び。すべてはライダーのために。

胸を守る・命を守る
胸部プロテクター

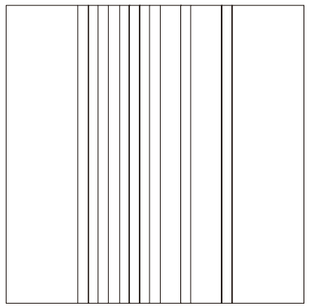
事故により亡くなった方が損傷を受けた主部位は、
頭部が 41.8% ともっとも多く、次いで多い要因が
胸部/腹部への損傷で、36.5% を占めています
(2016年統計より)。胸部に大きな衝撃を受ける事例として、他の車両や構造物、自車のタンク・ハンドル周辺への衝突などが挙げられます。胸部を強打することで、肺や心臓などの臓器がダメージを受け、最悪の場合は死亡へとつながってしまうのです。

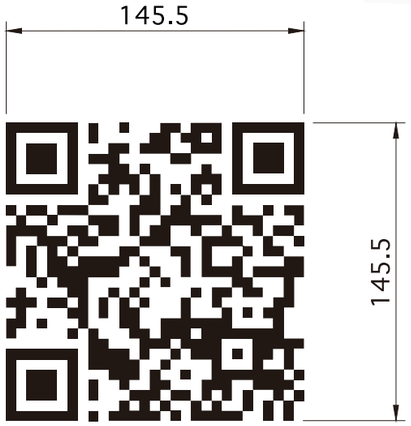
ヘルメットを身に付けるようにプロテクターを装着することで、万一の際に死亡事故へとつながるリスクを少しでも軽減し、ライダーのかけがえのない命を守る。

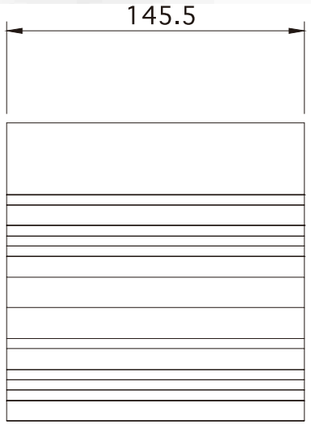
そのために TAICHI は常に新たな技術を取り入れ、安全で革新性のあるプロテクターを開発しています。

https://www.rs-taichi.com/safety/

SUGAWARA MODEL 菅原モデル







注記：
事業内容/プロダクトデザイン、製品開発段階での試作品製造、自動車バイク部品製造
主要製造品目/開発段階での樹脂試作品（デザインモデル・機能評価モデル）、
簡易金型による小ロット成形品、他 金属加工品（板金・プレス・ダイカストなど）

Dept.	Technical reference	代表取締役 菅原公一	SINCE 1984/08/20	Approved by	
		Company 株式会社　菅原モデル		Document status	
		Title QR_block		Tel 042-762-6675	
				Rev.	Date of issue	Sheet 1/1

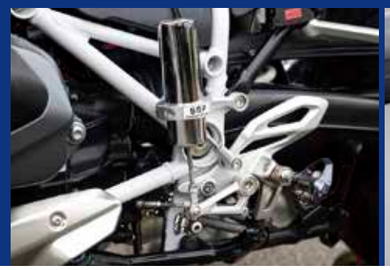
Root for SSPを支える最新技術

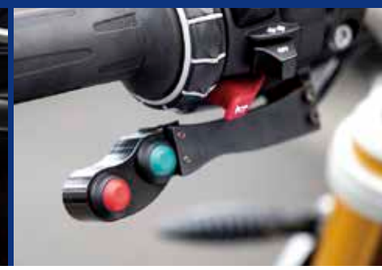
**SSPの活動には、様々な最新技術のサポートが必要不可欠
オートバイやライディングギアはもちろんだが
その他にもこんな技術がパラモトライダーを助けている**

オートシフター

株式会社菅原モデル　www.sugawaramodel.co.jp

SSPで用いられる車両は、下半身に障がいを持ったパラモトライダーでも操縦できるように作られている。自転車で用いられるビンディングで足をステップに固定し、シフトチェンジの操作を手で行うことができるようにオートシフターが装着されており、足を動かさずにオートバイを操縦することができる。





インカム

株式会社サイン・ハウス　sygnhouse.jp

パラモトライダーであっても、スタートとゴール以外は1人でオートバイを運転しなければいけない。しかし彼らはBluetoothインカム・B+COMによって常にスタッフと繋がっており、助言を受け取ることができる。また、パラモトライダーの中には視覚障がいを持っている方もいる。彼らに道を示してくれるのはこのB+COMから届くスタッフの声だけなのだ。

電動補助輪

株式会社ウイオール・モーターサイクル事業部(TRIJYA)　trijya.com

TRIJYAでは日本唯一の車検対応バイク用電動補助輪システムを取り扱っている。手元のボタン操作だけで補助輪の上下が可能となっており、このシステムによって下半身不随のパラモトライダーでもスタート、ゴールのアシストなしでツーリングを楽しむことが可能になった。SSPではBMW K1600に装着した車両をサポートいただいている。

バイクに無かった文化を作り、バイクで作った文化を広げる

B+COMについて
くわしくはコチラ

バイクの世界で生まれ、バイクの世界で歩み続ける私たちは、「バイク乗り」として「あったらいいな」を求め、ライダーのバイクライフの充実を目指しています。商品企画、開発から販売・戦略に伴う宣伝・プロモーション、ご購入後のアフターサポートに至る迄、一貫して自社で行い、これまで培ったノウハウやフットワークの良さを生かし、他社に真似できない商品やサービスを作り出すことで、オンリーワン企業を目指します。

https://sygnhouse.jp/

SYGN HOUSE

ひとつしかないこの地球。

いま世界中で「持続可能な社会」を実現していくための活動がうまれています。

ブリヂストンはこの2022年に“Bridgestone E8 Commitment”を定め、2050年に向けて、

私たちらしい8つの「E」、私たちらしい8つの価値を、私たちらしいやり方で創出していくことで、

持続可能な社会を支えることにコミットしていきます。

Energy カーボンニュートラルなモビリティ社会の実現を支えることにコミットする。

Ecology 持続可能なタイヤとソリューションの普及を通じ、より良い地球環境を将来世代に引き継ぐことにコミットする。

Efficiency モビリティを支え、オペレーションの生産性を最大化することにコミットする。

Extension 人とモノの移動を止めず、さらにその革新を支えていくことにコミットする。

Economy モビリティとオペレーションの経済価値を最大化することにコミットする。

Emotion 心動かすモビリティ体験を支えることにコミットする。

Ease より安心で心地よいモビリティライフを支えることにコミットする。

Empowerment すべての人が自分らしい毎日を歩める社会づくりにコミットする。

Bridgestone E8 Commitment to Our Future

ブリヂストンは、これまで以上に世界の課題と可能性に向き合っていきます。

未来の子供たちからの預かり物であるこの地球のために。みなさまと一緒に。

株式会社ブリヂストン
[お客様相談室] フリーダイヤル0120-39-2936
受付時間：月～金（祝日および指定休日は除く）9：00～17：00
www.bridgestone.co.jp

BRIDGESTONE
Solutions for your journey

パートナー企業

※順不同

BRIDGESTONE
MAEDA JYUKOUGYOU
MICHELIN
SOG Showa Denki Group
UGAWARA MODEL 菅原モデル
BMW MOTORRAD
KTM
Motorcycle Art
CYCLE JKA Social Action
Auto Race
阿部建設株式会社
株式会社上野工業所 UENO INDUSTRIAL CO LTD
ファインモータースクール
RUN
古木重機運輸 FURUKI JUKI UNYU
SODEGAURA FOREST RACEWAY
SUZUKA CIRCUIT
TRIJYA CUSTOM MOTORCYCLES
WAKO'S
全軽自協
Arai HELMET
BEYOND みんなで輪に行こう。バラスポーツ。
HYOD
AFC MOTOSPORTS
TRIP
Kabuto
KOMINE SAFETY & INNOVATION
SDGs パートナー
SHOEI PREMIUM HELMETS
SYGN HOUSE
TAICHI
アマンテラス

寄付のお願い

サイドスタンドプロジェクトでは
オートバイで障がい者に
“夢”や“希望”を与える活動に努めています。
この活動は企業サポーター及び
個人寄付金で運営をしております。
オートバイを愛するあなたの力で
一緒に障がい者の夢を叶えませんか?

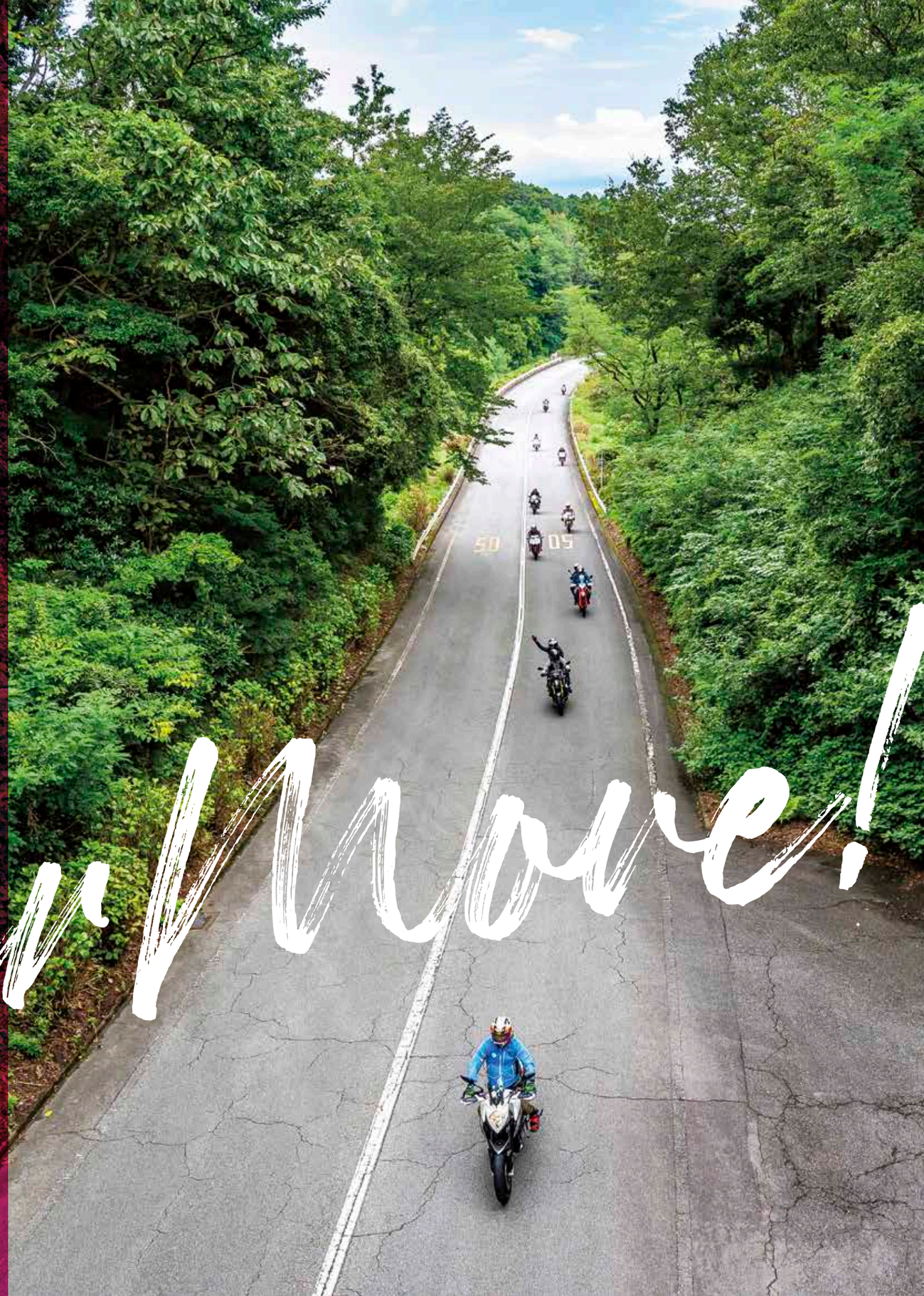
企業・個人定額寄付金

ssp.ne.jp/support

お気持ち寄付

住信SBIネット銀行
法人第一支店　普通 1396121

お問い合わせ先
Tel:042-785-2299
Mail:ssp@ssp.ne.jp
Webサイト:ssp.ne.jp



SSP
Side Stand Project
042-785-2299 | ssp@ssp.ne.jp | ssp.ne.jp

Auto Race
この冊子はオートレースの補助事業を受けて制作しました